

2020年12月15日

2021年度大会開催主管各位

競技運営委員会

2021年度競技会開催に関してのお願い

平素は大会開催に関してご尽力賜りまして誠にありがとうございます。

2020年度は新型コロナの影響で思うように大会開催が出来ずご苦勞をされたことと存じます。2021年度も同様の状況が起こる可能性もあり、また1年延期となったオリンピックの影響もあり変則的な状況が続くと思われまます。各射撃場の運営になるべく影響がなく、さらには参加者を増やすべく様々な対応を行ってまいりたいと考えております。また、試合運営に関してはグレードに合わせた運営を行い、主催として責任ある大会運営を行い競技者に対して公平な運営を示せるように行いたいと考えております。皆様のご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

ご意見がありましたら、佐橋宛にご連絡頂きたくよろしくお願い申し上げます。

記

1) 全日本ライフル射撃選手権 10m 並びに BRBP の分散開催に関して

次年度も新型コロナの影響もあり分散開催の可能性もあり、また将来に向け新たな競技会のあり方を考え永続的な分散開催の可能性を模索しております。遠隔地でも G1 公式試合に出場できることで普及と総参加者拡大によるレベルの向上を考えております。もちろん、主管県の運営に負担をかけないような手法を考えております。

- ① 分散開催主管射撃場のうち1か所に本部を置き、ここにリモートスタッフ (DJ 含む) を日ラ費用で派遣する。(競技会開催に必要な本部公認審判員はリモートスタッフが兼務して主管団体の審判員費用負担の軽減をはかる。)
- ② G1 での開催とする。(規則集の公認競技会の格付規程を改定予定)
- ③ 分散開催地は主開催地より遠隔地 (2ブロック以上離れている。ただし新型コロナ発生時は別途定める) とする。
- ④ 分散開催地は募集する。Wi-Fi とカメラを準備できる場所とする。審判員は G1 基準での配置とするが、審判員等の配置規程は②に記載の通り規程を改定する予定で、本部役員が競技会審判員として機能し、分散開催地の審判員は競技会の公正公平な運営を実現しつつ、極力少人数で開催できるように改定する。

2) ジェンダーフリーに対する新たな取り組み

射撃競技は、男女間の体力差に対して競技成績に与える影響が少ない競技である。すでに現在のルールで男女の弾数が統一されている。国内で他競技に先駆けて男女総合順位をつけることで、ジェンダーフリーへの取り組みを進めると共に、男女相互の競争を喚起し競技力向上を目指す。

下記の大会で男女総合での成績を発表し、表彰を行う (メダルは授与しない)。

G1大会 全日本ライフル射撃選手権大会 10m 50m BR BP

全日本選抜ライフル射撃競技大会 10m 50m

G2大会 JOC ジュニアオリンピックカップ

全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

3) オリパラ合同試合の設置

G1 全日本ライフル射撃選手権大会 10m にパラ選手が出場できるようにする。

パラ SH1 SH2 の S60 と P60 のカテゴリーを追加する。オリ S60 の男女と SH1・2 の S・P で混合ファイナル開催を検討する。その際 ISSF ファイナルではなく新しいファイナル方式を用いてエキシビジョンファイナルとして DJ も入れイベントとして盛り上げられるような内容にする予定。

4) 日本記録認定試合 (G1・G2・G3+) の試合運営に関して

① 足切りに関して

参加者多数の為足切りを設定する場合は、エントリー締め切り時点の日ラ最新ランキングを使用すること。日本記録を公認する試合であり、公平な選手参加を促すために設定する。

(ただし、選手強化・ジュニア育成・オリンピック選考関連については別途定める)

② TD の派遣と TD 報告書に関して

本来、TD 設置が必要な競技会である G3+以上の競技会については、日ラがジュリー名簿記載者の中から TD を任命し試合に派遣することとなっているが、これまでは慣例的に主管団体が選定し日ラが追認している状態であった。来年度からは競技会を主管する加盟団体が、実施要項を作成する段階で、競技運営委員会と協議の上 TD を決定し要綱に記載することとする。

TD は、競技会終了後 2 週間以内に、定められた競技会報告書・TD 報告書・TD 審判評価表を競技運営委員会に提出すること。

③ 10m はコントロールシート、50m はコントロールシートとバックターゲットを必ず設置する。

以上